



15 白鹿置物 沼田一雅ほか 一点

大正十五年（一九二六）

銀、鑄造

総五五・二×八一・〇×一四一・〇

大正十四年（一九二五）の大正天皇御結婚二十五年に際し、三井家より献上された銀製の置物。雌雄の鹿が寄り添う像で、借老長寿の意味が込められている。鹿は長寿の生き物で、千歳で蒼鹿となり、千五百歳で白鹿に、さらに五百年たつと玄鹿になるとされる。また、鹿と不老長寿の薬である靈芝は取り合わされて、吉祥図として絵画や工芸の主題に取り上げられており、本作のように鹿の足元に靈芝が添えられる他、鹿が靈芝をくわえる姿、鹿が靈芝の入った籠を背負う姿などに描かれる。

本作の制作は三井家より東京美術学校に依頼され、完成は翌十五年のことである。金や銀の金属材料は三井家より提供され、制作には同校教授や関係者たちが携わり、原案は渡辺香涯、原型は沼田一雅、鑄造は阿部整美が担当した。また、本作に備えられた黒漆塗の高い台座は、漆塗を六角紫水、側面に嵌め込まれた宝相華の彫刻は齋藤富五郎、金具は滝本友太郎による。なお、この作品は後の昭和二十四年（一九四九）、昭和天皇が御結婚二十五を迎えられた折に、貞明皇后より昭和天皇と香淳皇后にお祝いの品として贈られた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan